

日時： 2015 年 10 月 21 日 (水) 18:40-20:30

場所： 大阪市中央公会堂 大会議室

出席者 (順不同、敬称略)： 司会・書記：鷺山・大館

19名 (萩原、鷺山、伊藤 (高)、徳永、野原、田中、柳父、角、飯田、笹平、深井、小山、
佐々木、平井、木村、櫻本、原田、別役、大館)

テーマ： R T Oは何故わかりにくいのか？

ゴール ～どうすればR T Oは解りやすくなるか？～

ファシリテーター： 田中 実氏 (WGリーダー)

概要： 2014 年度 BCAO 関西 BCBG WG で活動した内容の詳細報告

～「BCBG を味わってみよう！」 勉強会参加者も巻き込んだの参加型ミーティング
参加者全員参加のホワイトボードミーティング (ファシリテーションの一手法) で進行した。
進め方として (発散) → (収束) → (活用) で参加者からの意見を聞きだした。

ファシリテーター 田中氏

1. なぜ、わかり難いか？

(発散＝とにかく意見・疑問を出す)

- ・ R T Oは経営者の意思で決まる
- ・ R T Oを決めても災害によって変わる
- ・ 大企業と零細企業の業態も違い、零細企業は災害で消滅してしまう
- ・ 個々に事業部 (地域) があるのに R T Oを一本化している
- ・ 各々の R T Oの決めるプロセスが違うので、幅広いものになる
- ・ R T Oは目安で、災害による変数がある
- ・ 教科書には R T Oの記載あるが、説明しづらく、教科書に沿うことはない
- ・ 災害の刻々と変わる状況化において R T Oは見直すべきもの
- ・ 個々の状況によって R T Oの基準が違う
- ・ 製造業とサービス業等 業種の違いで対応が異なる
- ・ R T Oの意味と必要性が？
- ・ R T Oは事象原因により種類があるはず

2. なぜ、決められないか？ なぜ必要か？決めるのか？

(収束＝発散から一定の方向性を見いだせないか)

- ・ B C Pがないので、R T Oを決めていない
- ・ 大学なので、R T Oは授業再開
- ・ R T Oは売り場の確保 (店頭)
- ・ ユーザー別には設定していないが、商品別には決めている
- ・ M T P Dへの取組はあるが、R T Oはない
- ・ 医療関係は中断できず、R T Oは教育訓練を充実させるために必要
- ・ 様々な業態に分けて考えてはどうか
- ・ 自社経営環境によって T O Pが決める

- ・重要業務さえ決められない
- ・変数を決めてシナリオをつくる、目標を可視化する。
- ・最悪を想定したスタート
- ・RTOはあくまで事前準備であり、発災後に練り直し（見直し）

3. どうすれば、RTOは解り易くなるか？

（活用＝本日の議論を通じて活用のヒントが得られるとすれば、それは何か）

- ・安心安全より（というよりは）、サバイバルで RTOを経営資源と考える。
- ・RTOの決め方をパターン整理する
- ・資金（損益）と復旧手段の話しが抜けおちている
- ・RTOは時間軸中心で決められるからわかり難いので、他の要素（定量・定性）を考える
- ・RTOは戦略のポイント（ギャップ対策）である
- ・RTOは前提条件の上に成立
- ・重要項目を整理、経営資源の再配分である

上記のように、ホワイトボードミーティングを用いて課題へのアプローチを行なった。

課題が協議前提の不安定さ及び限られた時間なので、そもそも答えをだす場ではなかった。

このミーティングの目的は、一人ひとりの参画意欲と多くの少数意見を出すことに目的があった。

BCBGのワーキンググループの活動についての理解が深まれば良しとした。

以 上